

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04245

研究課題名(和文) 少年院における更生的風土の歴史的形成に関する研究

研究課題名(英文) A study on historical formation of the rehabilitative climate in juvenile training schools

研究代表者

岩田 一正 (IWATA, KAZUMASA)

成城大学・文芸学部・教授

研究者番号：70338573

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「現代日本の少年院で観察されるような、職員と少年、あるいは少年同士が立ち直りに向けて協力的に日常の活動や生活を行う施設内文化」を「更生的風土」と定義し、更生的風土が昭和40～50年代の少年院においてどのように形成されたのか、という十分に文書化されていない矯正教育史を記述するために、旧職員5名に対して実施した聞き取り調査に基づいた史料集を研究成果として刊行した。

5名の内、3名はいわゆるキャリア職員であり、2名は現場のたたき上げの職員である。両者に聞き取りを実施することで、少年矯正教育政策の立案過程、現場の課題という双方向から、「更生的風土」の形成の動態を記述することができた。

研究成果の概要(英文)： In this research, we define “ the culture in the institutions observed in juvenile training schools of modern Japan where people perform cooperatively everyday activity for juveniles’ rehabilitation” as “ the rehabilitative climate”. Since the history of correction education has not been fully documented, we carried out hearing investigations for five former law instructors how the rehabilitative climate was formed at the time of the 40-50 generation of the Showa era. We published a source book on this investigation.

Three of the five subjects mentioned above are so-called executive personnel, and the rest are self-made staffs. Therefore, we could describe the dynamics of the formation of the rehabilitative climate from both the perspective of the process of planning the juvenile correction education policy and the perspective of problems each juvenile training school faced.

研究分野：日本近現代教育史

キーワード：矯正教育 更生的風土 ライフ・ヒストリー 聞き取り調査 言説分析

## 1. 研究開始当初の背景

昭和40～50年代に日本の少年院の教育のあり方が大きく変容したことはよく知られている。しかし、学術的な観点からこの時期における「更生的風土」(現代日本の少年院で観察されるような、職員と少年、あるいは少年同士が立ち直りに向けて協力的に日常の活動や生活を行う施設内文化を、本研究では更生的風土と呼ぶ)の形成過程を考察したものは、ほとんど存在しない状況にある。

教育学分野での先行研究では、逸脱的な傾向を持った少年に対してさまざまな関心が寄せられ、心理学・社会学・哲学的なアプローチを始めとして、多様な観点から考察がなされてきた。しかし、少年院に送られた後の彼らの教育やそこでのあり方についての考察は、十分に蓄積されてこなかった。

近年になって、現代日本の少年院教育を教育学の視点で実証的に分析・考察する研究が登場してきているが(広田照幸・古賀正義・伊藤茂樹編『現代日本における少年院教育 質的調査を通して』名古屋大学出版会、2012年、広田照幸・後藤弘子編『少年院教育はどのように行われているか 調査からみえてくるもの』矯正協会、2013年)現代の一断面を切り取ることに終始しているため、どのように更生的風土が形成されてきたのかは、解明されないままとなっている。

この解明されない問いに迫るために、本研究では、現在の日本の少年院に見られる更生的風土が歴史的にどのように形成されてきたのかを、昭和40～50年代に焦点を合わせて分析することを通じて、従来の先行研究を補完することを課題として設定した。特に、現代日本の矯正教育の出発点と位置づけられている矯正局長依命通達「少年院の運営について」がどのような文脈で発出されることとなり、各施設にどのような影響をもたらしたのかを検討することによって、この課題に迫ることを目指すこととした。

## 2. 研究の目的

本研究では、前記した「更生的風土」が、昭和40～50年代にどのように形成されたのかを明らかにすることを研究目的としている。

この目的に迫るために、日本の矯正教育の大きな歴史的転換を、教育学の観点から実証的に分析し、その教育学の含意を考察する。具体的には、矯正教育史関連文書史料の分析と、戦後の矯正教育を当事者として担った人物への聞き取り調査を通じて、少年院の施設内文化を一新したとされる昭和52年の矯正局長依命通達「少年院の運営について」が、少年院が蓄積してきた実践とのあいだにどのような葛藤を生じさせ、その葛藤がどのように調停されて更生的風土として表現される少年院の施設文化が形成されたのかという、文書化されていない矯正教育史を記述する。

## 3. 研究の方法

少年矯正教育政策史に関連する文書史料の分析、そして矯正教育政策に関与したキイ・パーソン、少年院の現場に長期に亘って勤務した旧職員への聞き取り調査という質的な研究方法に基づいて、日本の少年院の施設内文化である更生的風土がどのように形成されたのかを考察する歴史研究に取り組んだ。

文書史料としては、矯正図書館や国会図書館、大学図書館、古書市場などを活用して、矯正局や管区、各施設で作成された文書史料、『刑政』や『矯正教育研究』などに掲載された同時代の行政的・実践的関心から編まれた文書史料、職員の院内誌、聞き取り対象者が所蔵する私文書を収集した。

聞き取り調査では、既に平成25・26年度に予備作業として、少年矯正教育政策の立案などにかかわったキイ・パーソン2名、施設で長年実践に携わってきた旧職員3名の計5名に対して聞き取り調査を実施したが、研究の進捗に応じて、その5名に改めて聞き取り調査を実施するとともに、新たな対象者に聞き取り調査を実施し、このうちの数名を選択して、聞き取り調査の記録集を、基礎史料として編むこととした。

## 4. 研究成果

### (1) 平成27年度

研究開始年度である平成27年度は、少年矯正教育政策史研究、旧職員ライフヒストリー研究、各施設事例研究という三つの質的研究に取り組んだ。そしてそれぞれの研究について、MLを活用して研究代表者、研究分担者、連携研究者が進捗状況を頻りに連絡し合うとともに、東京(9月)と大阪(3月)において1回ずつ研究会を開催し、各研究の成果と課題を確認するとともに、今後の研究方法、分析対象、研究成果の発表方法などについて確認した。

の研究について言えば、研究代表者と研究分担者が、矯正教育関連の通史や前記した矯正局長依命通達が発出された時期の『刑政』、『矯正教育研究』、各大学の紀要などの文書史料において、矯正政策と現場の施設の実践がどのように関連づけられ論じられてきたのかを、更生的風土の形成過程という観点から分析する作業に取り組んだ。

の研究に関しては、一昨年度に実施した予備調査を含めて、旧職員の合計5名(少年矯正教育政策立案に関与したキイ・パーソン3名、現場に長く勤務した旧職員2名)に聞き取り調査を実施することができたが、このうちの1名については聞き取り調査に不十分な点が存在したので、再度の聞き取り調査を実施した。

の研究では、茨木農芸学院と浪速少年院の施設訪問を行い、事例研究の可能性を探ることができた。しかし、予定していた聞き取

り調査を実施することはできなかつた。また、両施設とも建て替えによって文書史料が散逸しているため、別の施設を対象とする事例研究の可能性も探っていくこととした。

#### (2) 平成 28 年度

平成 28 年度は、前年度と同様に、少年矯正教育政策史研究、旧職員ライフヒストリー研究、各施設事例研究という三つの質的研究に取り組んだ。

については、日本教育学会第 75 回大会(8月23日、北海道大学)において、現職の法務教官 2 名(1 名は多摩少年院、1 名は浪速少年院に勤務)を招いてラウンドテーブルを開催し、昭和 52 年の矯正局長依命通達発出以降の歴史的展開を当事者から伺うことができた。

この準備のために、ML を活用して研究代表者、研究分担者、研究協力者が進捗状況を連絡し合うとともに、前述の法務教官 2 名を招いた研究会を、6 月から 8 月に東京で計 4 回開催した。ラウンドテーブルには想定以上の参加者があり、本研究に関する示唆、助言を得ることができた。

の研究に関しては、昨年度までに実施した旧職員 5 名(少年矯正教育政策立案に関与したキイ・パーソン 3 名、現場に長く勤務した旧職員 2 名)の聞き取り調査の結果をまとめた史料集を刊行することができた(300 部)。編集には、法務省矯正局少年矯正課の協力を得た。本史料集を聞き取り調査対象者、矯正管区、少年院、少年鑑別所、矯正図書館、その他の矯正教育関係者に寄贈したが、このことを通じて、本研究の研究成果の一端を社会に還元することができた。また、本史料集は、本研究の基礎史料として、の研究にも活用していくこととなる。

の研究では、前記した日本教育学会大会の日程に合わせて研究代表者、研究分担者、研究協力者全員で帯広少年院を訪問するとともに、研究者それぞれが他の施設を訪問することを通じて事例研究の可能性を探った。しかしながら、施設改修などの影響で文書史料が散逸、廃棄されているため、他の施設を対象とする事例研究の可能性を模索した。

#### (3) 平成 29 年度

平成 29 年度は、前記の史料集を踏まえた研究活動を遂行することに尽力した。具体的には、研究代表者である岩田は、史料集を従来の矯正教育史と接続するために、矯正教育政策史関連の文書史料を渉猟する作業に取り組んだ。また、史料集から導出できる成果を、法務省矯正局・保護局主催の研究会で発表するとともに、教育に関する言説を分析する視角を提示する書籍を刊行した。

研究分担者である後藤は、大阪少年鑑別所と交野女子学院、八街少年院、多摩少年院を訪問し、少年院法改正(2015 年 6 月施行)後の更生的風土に関する聞き取り調査を実施

することで、昭和 40~50 年代の更生的風土と現在のそれを比較検討する作業に取り組んだ。また、多摩少年院において史料調査を実施した。

研究分担者である平井は、法務省矯正局の協力の下、茨城農芸学院における昭和 40 年代の教育実践のあり方、特に少年たちの「荒れ」とその沈静化に向けた職員の教育的働きかけの諸相に着目した参観調査と聞き取り調査を実施し、今後の研究の課題を見出す作業に取り組んだ。

#### (4) 総括

本研究には三つの課題があった。すなわち、少年教育政策史研究、旧職員ライフヒストリー研究、各施設事例研究である。

については、史料集の刊行、史料集に基づいた研究発表など、十分な成果を収めることができた。そして、その史料集は、今後の少年矯正教育史の基礎史料となり得るものであり、この学問分野の蓄積に貢献することができた。

については、史料集にある旧職員の語りを少年矯正教育史や教育言説に位置づける課題に取り組むことができた。ただし、十分には位置づけることができていない面もあるため、研究期間終了後も、この課題に継続的に取り組むことが必要となる。

については、研究調査の可能性を探るためにいくつかの施設を訪問したが、主として施設の建て替えを原因として、各施設の文書史料が廃棄、散逸している状況に直面した。そのため、十分な研究調査活動を遂行することができなかつた。しかし、聞き取り調査を中心として施設の事例研究を遂行することとし、最終年度にこの作業に取り組むことができたのは、本研究の成果の一つとすることができる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

後藤弘子、「犯罪時少年の死刑執行」がなげかけるもの、世界、第 905 号、査読無、2018、pp.2-32。

平井秀幸、犯罪・非行からの「立ち直り」を再考する「立ち直り」の社会モデルをめざして、罪と罰、第 53 巻第 3 号、査読無、2016、pp.121-140。

平井秀幸、ポスト・リスクモデルの犯罪者処遇へ? 新自由主義・レジリエンス・責任化、犯罪社会学研究(日本犯罪社会学会)第 41 号、査読無、2016、pp.26-46。

後藤弘子、少年司法と治療的司法、季刊刑事弁護、第 87 号、査読無、2016、pp.78-82。

後藤弘子、犯罪とジェンダー 女性犯罪者の立ち直りの困難、こころの科学、第 187 号、査読無、2016、pp.2-8。

岩田一正、『少年世界』が提示した少年像、大阪国際児童文学振興財団研究紀要、第 29 号、査読無、2016、pp.47-54。

後藤弘子、成人年齢の引下げ、法学教室、第 413 号、査読無、2015、pp.30-35。

平井秀幸、「移植」と「転移」 1960 年代の薬物使用と「介入/処遇」をめぐる歴史社会学的考察、四天王寺大学紀要、第 59 号、査読有、2015、pp.63-99。

岩田一正、少年院における「更生的風土」の生成に関する調査研究 昭和五二年矯正局長依命通達「少年院の運営について」を中心に、刑政、第 126 巻第 9 号、査読無、2015、pp.40-48。

〔学会発表〕(計 7 件)

後藤弘子、裁判所と付添人の協働、第 27 回全国付添人経験交流集会、2017 年 2 月 12 日、城山観光ホテル(鹿児島県鹿児島市)。

高井良健一、岩田一正、齋藤智哉、授業研究を機軸とした高等学校における新任教師の変容、日本教師教育学会第 26 回大会、2016 年 9 月 18 日、帝京大学八王子キャンパス。

岩田一正、服部達也、長能浩典、後藤弘子、平井秀幸、矯正教育における「更生的風土」の形成 昭和 52 年矯正局長依命通達を中心に、日本教育学科医大 75 回大会、2016 年 8 月 23 日、北海道大学札幌キャンパス。

Hideyuki Hirai, In the Name of Protecting Prisoners' Rights: Understanding Prisoners' Experience of Responsibilization and Bulimic Empowerment in Contemporary Japan, WORKSHOP ON: Critical Prison Studies, Carceral Ethnography, and Human Rights: From Lived Experience to Global Action(招待講演)(国際学会)、2016 年 6 月 24 日、Onati International Institute for the Sociology of Law(Onati, Spain)。

後藤弘子、Feminist Legal theory and Sex crime in Japan、第 4 回東アジア法社会学会(国際学会)、2015 年 8 月 6 日、早稲田大学。

後藤弘子、Japanese Juvenile Court and Therapeutic Jurisprudence、第 34 回世界法と精神医療学会(IALMH)大会(国際学会)、2015 年 7 月 15 日、ジューグムントフロイト大学(オーストリア、ウィーン)。

後藤弘子、Feminist legal theory in Japan, FEMINIST LEGAL THEORY IN THE UNITED STATES AND ASIA: A DIALOGUE(招待講演)(国際学会) 2015 年 5 月 16 日、復旦大学法科大学院(中国、上海)。

〔図書〕(計 7 件)

岩田一正、教育メディア空間の言説実践、世織書房、2018、330。

指宿信、木谷明、後藤弘子 他、シリーズ刑事司法を考える 第 4 巻、岩波書店、2018、301。

金子奨、高井良健一、木村優、岩田一正 他、「協働の学び」が変えた学校、大月書店、2018、

301。

岩田一正、後藤弘子、平井秀幸、藤井玲子、矯正教育関係者によって生きられた矯正教育史 昭和 52 年の矯正局長依命通達を中心と聞き取り調査史料集、科研費報告書、2016、365。

岩田一正、明治後期から昭和初期までの教育問題の構成に関する研究、東京大学(学位論文、博士(教育学)) 2016、249。

岩田一正、阿部勘一 他、グローバル時代に見られる地域社会、文化創造の様相、成城大学研究機構グローバル研究センター、2016、212。

後藤弘子、よくわかる少年法、PHP 出版、2015、63。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩田 一正 (IWATA, Kazumasa)  
成城大学・文芸学部・教授  
研究者番号：70338573

(2) 研究分担者

後藤 弘子 (GOTO, Hiroko)  
千葉大学・大学院専門法務研究科・教授  
研究者番号：70234995

平井 秀幸 (HIRAI, Hideyuki)  
四天王寺大学・人文社会学部・准教授  
研究者番号：00611360

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

藤井 玲子 (FUJII, Reiko)

服部 辰也 (HATTORI, Tatsuya)

長能 浩典 (NAGANO, Hironori)